

若手・中堅職員の現場を楽しむ 「マイペース」活用術



新連載

マイペースのすすめ

ほん　だ　しげる
本田　茂

農業経営診断士　6次産業化プランナー



1. はじめに

「余計なことをすると足を引っ張られる」「がんばっていると出世したいと思われる」皆さんはお酒の席で、同僚や先輩・後輩とこんな会話をしていませんか？

筆者もかつては皆さんと同じJAグループに籍を置き、「俺は出世なんてしたくない」「上は現場を分かっている」などとかっこつけて、内心は「自分の評価や周囲の出世」を人一倍気にしている人間でした。現場を大切にしながらも独りよがりな孤軍奮闘し、ある日、我慢していた想いが爆発して上司と衝突する。典型的な悩める不器用な中堅社員でした。

唐突に自分のお恥ずかしい話を

しましたが、今、周囲はJAへの自己改革への圧力があふれています。外圧が厳しいと内部のムードが悪くなり、仕事の押しつけや責任のがれが増える中、現場で頑張っている中堅社員の皆さんは、周囲の言動に左右されながら多くのストレスの中でがんばっているのではと感じています。

筆者は退職して、多くのことを捨てました。出世や地位、安定した将来、組織の力…。でも、いざ多くのことを捨てて身軽になると、やるべきことが明確になり、反対に今まで抱えていた多くのストレスや不安は実はたいしたことではなかったことに気が付きました。退職して気が付いたことを、もっと前に気が付いていれば！

「周囲の目に惑わされずにマイペースに現場を楽しむこと」これが今の自分が中堅職員の皆さんに伝えたいことです。皆さんに、新しい視点、挑戦するモチベーション、もっと今のJA ライフを楽しむ方法をお伝えできれば幸いです。

初回は、私が勧める「マイペースな生き方」を解説します。

2. アドラー心理学から学ぶ

昨年、書店に並んでいた『嫌われる勇気』アドラー心理学の入門編といえる本ですが、お読みになった方はいられますか？

この本では、下のように大きく3つのことを言っています。

競争しない	すべての悩みは対人関係の中にある。競争の中に入らない
「いいわけ」は無意識の暗示にかかる	「足を引っ張られる」等マイナス発言は、実は変化したくない自分の潜在意識に引っ張られている
成長する自分にフォーカスする	周囲の目をきにせず、マイナスな言葉をはかずに、自分の成長を意識する

皆さんがいる地域では、周囲との足並みを乱すことを恐れる風潮がありませんか。しかし、周囲と

同調してさざ波をたてることを恐れていては何もできません。このことで葛藤している職員の方も多いのではないのでしょうか？

アドラーはこの葛藤を、「嫌われる勇気」と表現しています。詳しくはこの本を読めば分かりますが、「いたずらにケンカしろ」とか、「出世をあきらめろ」と言っているではありません。アドラーは、「全員から好かれようとしないう」ことを推奨しており、これからの皆さんに大きなヒントになる生き方だと思います。

3. 捨てると楽になる3つのこと

マイペースに生きることは、捨てることだと思っています。捨てると楽になることがたくさんあります。皆さんは、あれもこれも全てを手に入れようとするために苦しくなるのです。

1つ目は、今まで培ったキャリアやプライドです。かつてはJA職員と言え、地域の中で安定した地位であったかと思います。こうした組織にいるプライドが、実は知らず知らずの内に自分の中に住み着いているのです。こうした

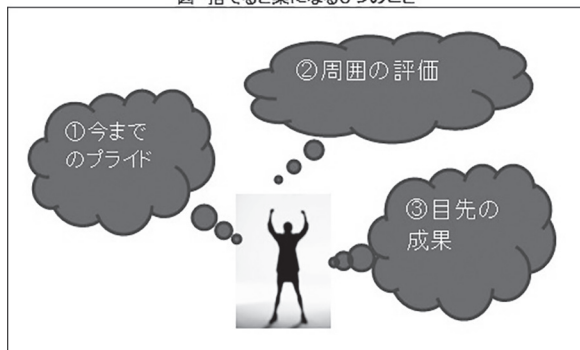
プライドを捨ててみると、新しいことを取り入れる余地や新しい人と出会う度量が生まれてきます。大切なことは、「今まで何をしてきたか」ではなく、「これから何ができるか」なのです。

2つ目は、周囲の評価です。とは言っても、かつて自分も人事異動に一喜一憂していたので、そう簡単なことではないとわかります。これはアドラー心理学の中でも、一生かかってこの道に進む入口に入ったに過ぎない、と書かれるほど簡単ではありません。

皆さんの周囲には「自分を必要としてくれる人」「上辺だけ接する人」「自分をよく思っていない人」いろいろいますよね。しかし、皆さんが特に気にするのは「自分をよく思っていない人」の言動であり、その人からの評価をいつまでも根に持つ傾向があります。

自分とは合わない人間関係に無理をしている人は、一度「NO」と言うてみることです。但し、い

図 捨てると楽になる3つのこと



きなりやると周囲がびっくりしますから、少しずつ自分の意見を言ってみるのです。飲み会の誘いをさりと断ってみる、どうしても合わない人との仕事を丁寧に断ってみる、などですが、ポイントはいきなりバッサリとやらないことです。やってみると気が付くのですが、あれだけ気にしていた周囲の評価が、思っていたほど気にならないのです。距離を置く人、攻撃する人、察してくれる人、いろいろな反応があるかもしれませんが、「無理をしていい顔をする自分」より「多少嫌われても楽になる自分」を実感できるはずです。

3つ目は、目先の成果にとらわれすぎないことです。これは2つ目の周囲の評価を気にしすぎていることにも連動しています。成果

をあげるために自分の我だけを通してと無理をしてしまいます。しかし、マイペースな人は、相手の状況を見ながら、柔軟に関係者全員がOKになる妥協点を探そうとし、時間をかけて根回しを丁寧に積み上げることができます。露骨に自分たちの手数料や事業の儲けを優先するよりも、まず農家や取引先に先に儲けてもらうことができます。結果、周囲から感謝され自分の業務をうまく進めることができるのです。

4. さいごに

マイペースな生き方とは、今まで解説してきたように以下の2つが重要であると思います。

嫌われる勇気を持つ（競争をしない）

捨てられる力を持つ（プライド、周囲の評価、目先の成果）

この2つを実行しながら、皆さんが思い描く理想的な仕事のスタイルは、現場の中に必ずあるのです。

マイペースな人の行動は、いくつか特徴があります。急がずに、しなやかに、あきらめない、こんなJA ライフを楽しんでいる上司や同僚がいませんか？ こうした人たちは、組織内だけでなく家庭でも地域でもプライベートでも楽しんでいますよね。

次回からは、具体的にマイペースな仕事の臨み方、取組みなどを紹介していきます。皆さんと一緒に、マイペースに連載していきますので、よろしくお願いします。

※参考文献 『嫌われる勇気』 岸見一郎、古賀史健著 ダイアモンド社

執筆者紹介



本田 茂…農業経営診断士。宮城県在住。農家や農業法人に対する経営支援をおこなうため平成24年10月独立。17年間 JA 全農で青果物流通の現場にいた。主な担当品目は、菌茸類、豆類、土物全般、筍、梅、きゅうりなど。在職中に、平成22年経済産業省登録中小企業診断士となる。現在は、農家の商品開発や販路開拓、GLOBALGAP 認証支援、青果物市場の経営コンサルティングや人材育成、(社)日本食農連携機構東北支部事務局長を務め、農業者と企業とのマッチングの場づくりの活動を行っている。

●園芸担当者向け研修講師承ります。

お問い合わせは JA 経営実務担当栗野まで awano@zenkyou.com;